

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU 三春わが街 MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL. 60 (年4回発行)

■発行日 平成23年6月30日

■発行 三春まちづくり協会

■編集 三春まちづくり協会広報部会

三春町字大町178 (旧公民館内)

TEL/FAX (62) 3988

| 三春まちづくり協会役員 | | |
|-------------|-----------------|---------|
| 協会長 | 幕田 勝 寿 | 八幡町 |
| 副協会長 | 村上 弘 久 | 大幡町 |
| 監事 | 永井 文 雄 | 本郷町 |
| | 二本 明 弘 | 上郷町 |
| 大町委員長 | 村上 信 三 | 上郷町 |
| 中八幡町委員長 | 橋本 明 三 | 本郷町 |
| 荒北町委員長 | 吉本 清 男 | 本郷町 |
| 新北町委員長 | 橋川 徳 清 | 本郷町 |
| 八島台委員長 | 橋川 徳 清 | 本郷町 |
| 各部会長6名 | 栗原 玲 子 | 八幡町 |
| 専従職員 | | |
| 部会名 | 氏名 | 推薦団体 |
| 生涯学習部会 | ◎村上 俊 朗 | 八幡町 |
| | ◎宇野沢 恵 子 | 大幡町 |
| | 佐久間 能 生 | 中郷町 |
| | 橋本 寛 北 | 上郷町 |
| | 植田 ちか子 | 新郷町(区長) |
| | 白橋 本 石 武 仁 | 八島台(区長) |
| | 千石 葉 喜 好 | 八島台(区長) |
| | 佐久間 藤 敏 一 | 三春小PTA |
| | 伊藤 藤 敏 一 | 三春中PTA |
| | 伊藤 藤 敏 一 | 三春小PTA |
| 環境部会 | ◎鈴木 木 崎 | 八幡町 |
| | ◎村上 喜 治 | 大幡町 |
| | 鈴木 木 崎 | 本郷町 |
| | 服部 盛 正 | 北郷町 |
| | 佐久間 佳 憲 | 新郷町 |
| | 増水 部 弘 | 大幡町 |
| | ◎田部 敦 子 | 民生児童委員 |
| | ◎吉田 敦 子 | 民生児童委員 |
| | 佐久間 貴 博 | 大幡町 |
| | 小林 東 和 | 八幡町 |
| 福祉部会 | 佐久間 貴 博 | 大幡町 |
| | 鈴木 木 崎 | 八幡町 |
| | 天野 忠 生 | 老人クラブ |
| | ◎仁井田 弘 美 | 八幡町(区長) |
| | ◎田母野 公 彦 | 新郷町 |
| | 関 弘 | 大幡町 |
| | 佐々木 高 茂 | 中郷町 |
| | 鈴木 山 田 和 夫 | 北郷町 |
| | 影村 小 松 | 八幡町 |
| | ◎佐久間 保 利 | 八幡町 |
| 地域部会 | ◎中橋 渡 邊 義 子 | 大幡町 |
| | ◎中橋 渡 邊 義 子 | 大幡町 |
| | 武 敏 子 | 民生児童委員 |
| | 三松 本 正 吉 | 八幡町 |
| | 渡根 本 昭 | 新郷町 |
| | ◎佐久間 虎 俊 | 八幡町(区長) |
| | ◎橋本 永 井 山 田 柳 小 | 中郷町 |
| | | 大幡町 |
| | | 中郷町 |
| | | 大幡町 |
| 街並部会 | | 八幡町 |
| | | 八幡町 |
| | | 八幡町 |
| | | 八幡町 |
| | | 八幡町 |
| | | 八幡町 |
| | | 八幡町 |
| | | 八幡町 |
| | | 八幡町 |
| | | 八幡町 |
| 広報部会 | | 八幡町 |
| | | 八幡町 |
| | | 八幡町 |
| | | 八幡町 |
| | | 八幡町 |
| | | 八幡町 |
| | | 八幡町 |
| | | 八幡町 |
| | | 八幡町 |
| | | 八幡町 |

“新たな課題、東日本大震災＋原発事故！安全・安心のまちづくりをもとめて” ー平成23年度三春まちづくり協会総会開催ー

4月28日、平成23年度三春まちづくり協会定期総会が開催されました。3・11東日本大震災後初の総会となりましたが、災害復旧対策になにかと公務多忙の中、鈴木町長も出席され、震災発生以降の応急復旧や、避難自治体への救済対応の取り組みの経緯を説明されるとともに、今後の応急復旧についての町民のみなさんの理解と協力を要請されました。

総会は、幕田協会長を議長に、前年度の事業報告及び収支決算報告に続いて、23年度事業計画及び収支予算の審議が行われ、向こう一年間のまちづくり活動を決定するとともに、各区長や団体役員等の異動を受けた協会役員及び各部会員の新しい体制も決まりました。

今後は、総会で決定した通常事業に加え、提起された東日本大震災、東電福島原発事故の影響を受けた安全・安心のまちづくりのあり方をもとめ継続的に取り組んで行くこととしました。



【特集】
『東日本大震災＋東電原発事故』①ー
ー東日本大震災関連出前懇談会からー

三春まちづくり協会では東日本大震災・原発事故に関して、5月・6月の2回連続で、出前懇談会を開催しました。

1回目のテーマは「東日本大震災・原発事故への三春町としての対応」

2回目のテーマは「放射能と子どもたちの安全」

当協会では、原発事故の収束の道筋が見えない中で、今後も町民が一番知りたいテーマ、学びたいテーマについて懇談会を開催していく予定です。

今回はこの2回の懇談会の様子についてレポートします。

【第36回定期出前懇談会 (5月11日)】

「東日本大震災・原発事故への三春町としての対応」というテーマで、①大震災を踏まえての三春町の防災対策 ②原発事故への三春町の今後の対応と考え方 ③富岡町、葛尾村の方々をどのように迎えるのかの3点について三春町の考え方を聞きました。

深谷副町長のあいさつの後、橋本総務課長から資料に基づき次のような説明がありました。

◇3月11日から31日までの町の状況と対策について ◇三春町の災害状況 ◇環境放射能測定値 ◇土壌調査 ◇関係団体連絡会の設置 ◇町民への周知・広報 ◇相双地区受入の概要 ◇仮設住宅設置計画と富岡町・葛尾村との関係

◎会場からの主な質問

- ◇文部科学省が決めた子どもたちの被曝量の許容量(年間20mSv)について ◇三春町の野菜等について独自の測定はできないか ◇雑草(草むしりなどで出たもの)は燃えるゴミで出しても良いか
- ◇5月5日に町で開催したような勉強会は続けていくのか ◇富岡町・葛尾村から来る方々にも、広報みはるや防災無線など、三春の行政内容を知ってもらう必要があるのではないかと他

◎町からの主な回答

- ◇今後、東北大の先生方による長期的な土壌調査が予定されている ◇町独自に食品の放射線量を測定できるよう取り組むたい ◇富岡町、葛尾村の仮設住宅ができること、ひとつの町に3つの自治体(役場)という全国的にも例を見ないことによる、「自治体連絡会議」を設置して対応していく。

【第37回定期出前懇談会 (6月8日)】

「放射能と子どもたちの安全」というテーマで、遠藤教育長、大内教育課長から現在の状況について説明があり、その後質疑となりしました。

◎教育課からの主な説明

- ◇小中学校、保育所、幼稚園の空間放射線量の推移 ◇校庭の表土除去(16カ所)に關して2300万円の予算がついた ◇それに伴い校内の環境浄化対策(遊具、花壇、排水溝等の洗浄)に取り組む
- ◇プールはとりやめ、運動会は秋に開催する ◇暑さ対策として扇風機を330台購入する。エアコンは各校の保健室などに設置する

◎会場からの主な質問

- ◇学校給食の安全性について ◇子どもたちへ放射能についてどのように教えているのか ◇フィルムパッジの導入について ◇子どもたちの心のケアについて 他

◎町からの主な回答

- ◇学校給食はこれまで地産地消に取り組んできた。現在は業者が食材を納品する際に必ず産地表示をしてもらっている ◇放射能について子どもに年齢にあった教育ができるように考えている。現在はまだ教員向けの勉強会を実施していない ◇プールの水の放射線量は測定は簡単ではない ◇フィルムパッジ(ガラスパッジ)の導入については検討しており、対象となる子どもの数は約1500名

2回の懇談会とも会場には多くの町民に参加いただきました。時間の関係もあり充分な話し合いとはならなかった面もあります。この問題に関しては、三春まちづくり協会としても継続して取り組んでいく予定です。



まちづくり協会の活動について



三春まちづくり協会
副協会長 村上 弘

この度の東日本大震災により被害を受けられた方々には心からお見舞い申し上げます。
日頃、地域の皆様には、三春まちづくり協会に対しご支援、ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

三春まちづくり協会事業は、広報「三春わが街」の協会活動だより等で紹介しておりますとおり、各部長・委員の皆さんのご協力により順調に推進しております。特に、昨年のまちづくり視察研修では、栃木市の「山車会館」、「蔵の街美術館」等の施設を見学し、観光対策等に参考になり有意義な研修でした。

また、毎月テーマを決めて「町の課題をみんなで考えよう！」を念頭に、定例出前懇談会を継続して実施しております。特に、昨年十二月の「三春交流館まほらについて」、今年一月の「桜川の改修事業について」、二月「地区内在住議員との懇談会」については活発な議論や、意見交換がなされ重要な意思疎通の場となりました。町会議員との懇談では、出席議員のご意見を聞くことが出来たいへん有意義な懇談となり、引き続き協会関連のテーマで懇談会を開催する予定でしたが、東日本大震災・東電福島原発事故の発生により、「大震災・放射線量・校庭の表土除去」等にテーマを変えて出前懇談会を行いました。これからも町民の皆さまに参加していただき、ご意見を交換できれば幸いです。

三春まちづくり協会では、今後もより良いまちづくり活動をすすめてまいりますので、更なるご協力をお願いいたします。

協会活動だより

全体事業活動

三年目を迎えた
お城山のアジサイ植栽

五月二日、東日本大震災の発生により延期されていた城山公園へのアジサイ植栽作業が行われました。

これは、お城山を「春は桜、夏はアジサイ、秋はもみじ」と四季をおおして親しめる三春のシンボルとするための城山公園整備計画事業の一環です。

三年目の今年は、各まちづくり協会・三春さくらの会・県中建設事務所・三春



街並部会

新たに石柱一基設置

街並部会では、町内に伝わる地名の古称や由来等を石柱に標示設置しています。これまでの二十七基に加え、新たに次の一基を設置しました。

【三分坂（さんぶざか）】
○国道二八号北町八三番地内（渡辺正吉さん敷地）
・秋田公の時代に、近侍・警固の一宿直（このい）番衆の屋敷が有り、昼夜を問わず激務のため、手当が三分上乗せされたので、この名が残った。



役場職員等各団体会有志に参加し、鈴木町長のあいさつを受け、アジサイ苗木約千本を手分けして、それぞれ受け持ちエリアに植樹を行いました。

『三春わが街』— 第60号発行 — — 《プチ特集》 —

昭和60年7月、三春まちづくり協会の広報誌として創刊された『三春わが街』も今号で60号となりました。人生でいえば還暦という節目を迎えたことになりましたが、まちづくり協会活動を推進された関係者の方々をはじめ、読者としてこれを支えてこられた町民のみなさまのご理解とご協力の賜物です。

編集担当では、二回目の還暦に向けた『三春わが街』をより良い広報誌とするため、創刊から現在までをふりかえりプチ特集を組みました。

- 『三春わが街』編集内容の変革
- 創刊期：地域の話・人物・グループ活動等を中心とした地域情報誌的な内容（2枚4ページ刷り、年4回発行）
 - 変革期1：街の話・行事・催事・スポーツ行事のレポート等タウン誌的な内容（2枚4ページ刷り、年1回不定期発行）
 - 変革期2：街の話題に各部会活動レポート等が加わり広報紙的な内容（1枚2ページ刷り、年2回定期発行）
 - 現在期3：協会事業課題解決型活動レポート・行政、議会との懇談模様等広報・機関紙的な内容（1枚2ページ刷り、年4回定期発行）
 - 将来期：行政、議会との協働のまちづくり活動、情報共有のための両方向的広報・機関紙的な内容（適宜、適時）

『三春わが街』の産ごえ



一元広報部会長 中村 利孝さん

この『三春わが街』は、昭和六十年七月に創刊の産声をあげた。その前年、三春町は自治省から「コミュニティ推進地区」の指定を受け、「生活・環境・街並・調査広報」の四部会が設置され、「コミュニティだより」が発行された。それがどう読まれたのか意見を聞き、反省の上「多くの報告記事より多くの町民の意見を」、「多くの活字より多くの写真を」という方針で始まった。

さっそく創刊号の表紙取材のため大林ホールへ。エアロビックスのスポーツクラブの撮影で、あまり夢中でレオタード姿をカメラで追いかけて「いつまで撮っているんですか!」とお叱りを受け、逃げ帰ったのを思い出します。表紙には、町内で活躍している人やグループ、目立たないけれど町民のために役立つ仕事をしている人に登場してもらった。思わぬご馳走にあずかったのは、故渡辺民治さん。自作のお皿に盛られた蕎麦、山菜の天ぷらにびっくり。梅干作りの名人、故多田チイさんには梅干作りを教わったうえに、かつて味わったことのない梅漬けに感激した。故郡町好男さんは、二台のピアノを前に、息子さんからプレゼントされたマーク入りのポロシャツをきた笑顔姿が印象的でした。

取材で上京したこともあった。御免町出身の漫画家・前川つかささんには新宿の喫茶店でお話をうかがった。表紙をめくると、そこは特集のページとした。「隣組長さん」、「三春ってどんな街」、「ゴミは何でも知っている」、「みはるの子供・未来へ」などなど。できるだけ多くの方に紙面に参加して頂くために、三十人の顔写真と共に、意見・提言を載せたこともありました。

当初は役場職員が各部会に配属され、共同作業での編集だった。広報誌の編集は、いつも様々な意見がでて、ワイワイガヤガヤ楽しかったことが思い出される。

「三春わが街」第六十号
発行日 平成二十三年六月三十日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
広 報 部 会
三春町字大町一七八
(六二) 三九八八

編集後記

「東日本大震災」の影響で、三月の発行ができなかった。本来であれば二分の原稿量が揃い、編集作業も楽になる筈だったが、東電福島原発事故の発生で福島県内がこのような事情では、協会活動もままならない。まして不確実な情報が多くて、その整理だけで四苦八苦の状況だ。情報は多いに越したことはないし、伝達も早いに越したことはない。しかし、誤った情報や間違った情報に役立たないばかりか混乱を来す。勿論、不確実な情報も同様である。▼千年に一度と言われている巨大な自然の猛威は、多くの人命と財産と平穩な日常を瞬時に奪った。多くの情報が、テレビやインターネットで瞬時に世界を駆けめぐり、励ましと支援や援助の手がさしたのべられた。情報の果たした功績だ。▼原発事故は天災とは事情が違った。事故発生から収束への展望、放射性物質の危険と安全の見極め、どれをとっても確実な情報は伝わってこない。風評や情報錯綜で、福島県内は千年に一度の大震災より大きな被害にあっている。まるで、情報の大津波にあっているようだ。▼情報の功罪は様々だが、情報の送り手と受け手の認識が合わないこと、書となる危険性が高い。これが、千年に一度の機会から学んだ一つである。(逸)